

2006年度(平成18年度)学校評価自己評価表

校番 11	福山市立 鳳 中学校
-------	------------

1 学校教育目標

人を大切に、自ら学び、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成

2 経営理念

(1)地域社会における自校の使命(ミッション)

地域社会を支え、日本や世界の各地で活躍する社会人となるための基礎力の育成

(2)使命の追及を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

学力 学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力・創造力など質の高い学力
 安心・安全 ひとりひとりが安心して学校生活を送り、自分を伸ばせる教育環境
 指導力 確かな授業計画と充実した教育研究による指導方法工夫改善
 経営力 マネジメントサイクルを活かした学校、学級、教科経営
 スクールアイデンティティ 創立40年の歴史と伝統、誇り、高い満足度

3 自校の現状分析

- 課題 -

昨年度末に行ったCRT標準学力検査(5教科)では、3年生は全国平均を上回ったが、2年生は下回っている。1年生は4月入学時に行く。

昨年度の定着状況調査では、「人間関係」「自己実現力」「自己効力感」「コミュニケーション能力」が県平均に比べて大幅に低い。また、あいさつ、掃除、授業への真剣さなどの生徒の自己評価では肯定的評価は約50%である。

各種研修会への参加状況は80%以上であるが、研修報告については工夫が必要である。また、統一した指導ができていないと感じている教員は約60%に及んでいる。個人としても、システムとしても改善のためのお互いの指摘や相互批判に弱さがある。

11月の調査では、「学校に対する肯定的な評価」は生徒59%、保護者57%(分からないが29%)である。また、自校の教育実践が確実に前進していると感じている教員は約40%にとどまっている。

4 研究主題

(1)研究主題

確かな学力を育むための組織的取り組みに関わる実践研究
 - 授業力の向上を核として -

(2)研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
国(立)	教育政策研究所教育課程研究指定校 - 理科 -	平成17～18年度

5 今年度の重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
落ち着いた教育環境の確立 ・授業規律の確立 ・道徳の時間の充実 ・規範意識の高揚	自校の課題より、質の高い授業を展開し確かな学力をつけるための基盤として、落ち着いて授業ができる環境づくりが急務である。

6 評価基準

評価	基 準	
A	80%以上の達成度	目標を達成できた
B	60%以上80%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
D	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

7 目標・評価項目の設定と評価

市重点目標 (自校のビジョン)	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	分類	(最終)評価	短期経営目標の達成状況及び 次年度への改善策	次年度 方針	
【1】確かな学力 (学力) 学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力、創造力など質の高い学力	(1)基礎・基本の徹底を図る。	ア、反復練習により既習学力の定着を図り、各種検査の通過率(達成率)を昨年度よりアップさせる。	学習のまとめり毎に小テストを行い、定着不足の領域については教材(問題)プリントを作成し復習を行う。	新規	B	昨年度と比較して、基礎基本定着状況調査(国76.6 80.0,数70.0 64.9,英77.8 68.2),CRT検査(国65.0 80.0,数53.6 64.9)であった。 引き続き学力状況の把握を行い、5分間プリントの実施や休業中の課題として反復練習の回数を増やす。	継続	
			CRT等の標準学力検査を実施し、学力定着状況を把握し、定着不足の領域については教材(問題)プリントを作成し復習を行う。	見直し	A			
		イ、家庭学習 1日平均1時間未満の生徒を半減させる。	自主ノート提出率を80%以上にする。	見直し	A		自主ノートの提出率は上昇したが(77%),家庭学習時間の上昇にはあまりつながらなかった。 自主ノートの提出率や内容、家庭学習の実態を定期的に保護者に返しながら家庭学習の充実を図る。	継続
			学年で統一して、教材を準備し課題を与える。	新規	A			
		ウ、授業規律を確立し、落ち着いた授業ができるようにする。	授業規律指導マニュアル(チャイム席、あいさつ、発表など)を作成し、全教科・学年で実施する。	重点	A		2学期末より授業態度に改善が見え始めた。授業を真剣に受けていると答えた生徒は62%である。 進路指導(キャリア教育)の充実や連絡カード等による保護者との連携、学習集団づくりの実践などにより生徒のやる気を引き出す。	見直し
			全員が、聞く時間、書く(作業する)時間、考える時間、討議する時間、発表する時間等をきちんと区別した授業を行う。	見直し	B			
	(2)論理的思考力、豊かな表現力の育成を図る。	ア、朝の読書を充実させ、生徒一人あたりの読書量を平均15冊以上にする。	1学期中に学級文庫の蔵書を昨年度の1.5倍にする。	見直し	A	決まった生徒が常に読まない状況が年間を通して続いた。1年間の平均読書冊数は約12冊であった。 学年や委員会で呼びかけて未読生徒の減少に努める。次年度も引き続き目標を15冊とする。	見直し	
			学級担任・学年で個別指導を行い、未読生徒を0にする。	重点	C			
			3ヶ月毎に読書量を調査・指導・記録し、上位者(学級)を表彰する。	見直し	A			
		イ、あゆみ指導を積極的に行う。	あゆみの提出率を80%以上にする。	見直し	A	全担任があゆみ指導を積極的に行った。 書かない生徒にねばり強く働きかける。	継続	
			担任(副担任)でコメントを記入する。	継続	A			
		ウ、意見文、小論文が書けるようにする。	年3回(1学期、夏休み、冬休み)、全員に意見文を書かせ、優秀作品を表彰する。	文化祭(9月)で優秀作品を発表させる。	見直し	A	定期的に意見文を書く機会を設けたが、全員に書かせきることはできなかった。小論文指導は主に個別指導になった。選抜 合格率は40%(昨年度27%)であった。 意見文、小論文ともに全員を視野に入れた取り組みを行っていく。	継続
3年生については小論文指導(国語及び特設)を行う。	見直し			B				

市重点目標 (自校のビジョン)	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	分類	(最終) 評価	短期経営目標の達成状況及び 次年度への改善策	次年度 方針	
【2】豊かな心 (安心・安全) ひとりひとりが安心して学校生活を送り、自分を伸ばせる教育環境	(1)道徳教育の充実を図る。	ア、道徳性を高めるため、道徳の時間を充実させる。	1学期に道徳教育先進校の視察を行う。	新規	A	6月は道徳授業の公開・全体研修、11月は全学級での公開を行い、道徳の時間の充実を図った。 夏期休業中に指導案づくりの研修をていねいに行い、全学級での公開授業を行う。	継続	
			校内授業研究(6月)において道徳の全体研修を行う。	重点	A			
			PTA参観日において、全学級で道徳の授業公開を行う。	新規	A			
	(2)積極的生徒指導を行い、問題行動の未然防止を図る。	ア、すすんであいさつができる生徒を自己評価で60%以上にする。	イ、規範意識の育成を図り、問題行動を昨年度比で半減させる。	毎朝、8時20分には教室及び学年昇降口であいさつ運動を行う。	継続	A	アンケートの結果、あいさつをしていると答えた生徒が74.8%であった。 内容(声の大きさ、笑顔など)面も含めて指導法の工夫・改善を行う。	継続
				3ヶ月毎にアンケート調査を行い、指導方の改善を行う。	見直し	A		
				生活指導マニュアル(遅刻、服装、言葉遣いなど)を作成し、全員で統一した指導を行う。	重点	A		
				毎月、具体的な目標(月目標)を設定し重点指導を行う。	見直し	A		
				全校で統一した指導記録を作成し、必ず記入する。	見直し	B		
	ウ、生徒会活動を充実させる。	エ、部活動を活発にする。	オ、朝食の喫食率を90%以上にする。	学校評価自己評価表の目標(月目標など)に連動した日常活動を行い、点検・指導・記録する。	継続	B	の日常における生徒会執行部の活動内容は、高まったが、活動計画の8割以上達成は、ならなかった。特に、生徒会行事が年1回となった。 見通しをもって、十分な事前準備を行い年間計画の具体化(委員会別計画など)を図る。	継続
				毎月生徒集会を開催し、日常活動における優秀クラスを表彰する。	見直し	B		
				年3回(7月、11月、3月)、生徒会行事を実施する。	新規	C		
	(3)健康の増進を図る。	ア、朝食の喫食率を90%以上にする。	イ、部活動を活発にする。	週3日以上部活動につく。	新規	A	の目標に対して、結果は2.5回であった。 生徒の部活動への参加状況を調べる。	継続
				4ヶ月毎に調査し、参観日等を利用して啓発を行う。	重点	A		

市重点目標 (自校のビジョン)	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	分類	(最終)評価	短期経営目標の達成状況及び 次年度への改善策	次年度 方針	
【3】力量ある教職員 (指導力) 確かな授業計画と充実した教育研究による指導方法工夫改善 (経営力) マネジメントサイクルを活かした学校、学級、教科経営	(1)研究・研修(授業改善)を充実させる。	ア,校内授業研究会の充実を図る。	年3回(6月,10月,2月)授業改善月間を設定し,外部助言者を招聘して授業研究会を開催する。	重点	A	計画通りに年3回の授業改善月間と授業公開ができた。 授業改善月間を精選し,指導案の検討をていねいに行い,公開授業も視点を持った反省を行う。	継続	
			授業改善月間には全員が学習指導案を作成し,授業公開を行う。	継続	A			
	(2)学校評価システムを核とした経営を行う。	ア,学校評価自己評価表の短期目標を達成させ,保護者の学校満足度80%以上を目指す。	イ,指導力を高めるための自主研修を積極的に行う。	研修センターや教育研究団体が開催する任意研修会へ3回以上参加する。	見直し	A	計画通りに実施できた。 研修で学んだことを随時職員に還元し,中身のあるものにしていく。	定着
				4月中に評価項目毎に企画書を作成し,担当者・分掌をおき,進行管理を行う。	見直し	A		
			担当分掌で評価を1ヶ月毎に行い,改善を図る。	新規	B	評価項目の評価は A33, B9, C2 である。保護者の学校満足度は 44% で, 38% が不満を表している。 分掌部会(主任を中心に)が責任をもって役割を果たし,評価,進行管理を着実に進行。	継続	
			評価・改善のための分掌部会を毎月1回開催する。	新規	A			
イ,福山市文書管理システムを定着させる。	周知徹底のため校内研修会(4月)を開催する。	新規	A	校内研修会を実施し,起案決裁方式の方法は周知されている。実施率はほぼ100%である。 早めの起案,決裁に取り組む。	継続			
		起案決裁方式を導入し,実施率を100%とする。	重点			A		
【4】市民から信頼される学校 (スクールアイデンティティ) 創立40年の歴史と伝統,誇り,高い満足度	(1)教育環境を整備する。	ア,教室内掲示物を整える。	四月当初,企画担当者(分掌)をおき,教室内掲示を統一する。	継続	A	統一掲示物は,特別教室を含め全教室に掲示できた。 年間掲示に耐えられる材質を考える等の工夫改善を行う。	継続	
			企画担当者(分掌)で毎月1回点検し,改善を図る。	見直し	B			
		イ,常に教室内が整理整頓された状態にする。	授業を始める前に,教室内の整理整頓を行わせる。	重点	A	ともに全職員が意識して,取り組めた。 生徒を巻き込んだ取り組みとして,委員会活動の中でも計画する。	継続	
			毎日午後のHR後に整理整頓を行わせる。	新規	A			
	毎日下校時に学級担任・学年で整理整頓を行う。	見直し	A					
	学校へ行こう週間を年2回(6月,11月)実施する。	新規	A	計画どおりに実施できた。 保護者から出された意見をもとに,工夫改善に取り組む。	定着			
	学校評価自己評価表に基づく実践報告会(11月)を開催する。	継続	A					
	小学6年生児童・保護者対象のオープンスクール(11月)を開催する。	見直し	A					